

# Truepress JET 520HD Series

## User Report : 株式会社 ユニバーサルポスト

### 未来の印刷会社の姿を描く契機となり、 ビジネススタイルの変革と“創注”を実現

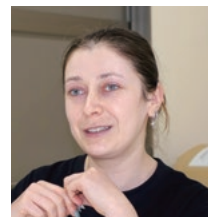
2019年に「Truepress JET 520HD+」を国内初導入して以来、全部門・全社員で「One to One」をキーワードにさまざまな取り組みを実践している株式会社 ユニバーサルポスト。導入を決めた経緯や営業、プロモーションの変化、今後の展望などを伺った。



取締役  
事業デザイン本部  
感性マーケティング室  
前田 尚子 氏



ブランド本部 ブランド室  
係長  
前田 優林 氏



Smart生産部  
データプロシージャセンター  
デジタル印刷Gr.  
ドラハン レイシャ 氏

#### 創業時から変わらない、 株式会社 ユニバーサルポストの存在意義

1947(昭和22)年に広島県で創業した、株式会社 ユニバーサルポスト。創業者の尾山卓造は、戦後の焼け野原になった広島を復興させるという想いをもち、商業印刷で経済を動かす仕組みをつくることを目的に印刷会社を発足させた。日本の高度経済成長時には、モノは作れば売れていき、広告は多くのお客さまに同じメッセージを届けることで、ビジネスを成長させることができた。現在はモノがあふれてしまい、お客さまも多様化しているため、一つ一つの商品価値について個々のお客さまにメッセージを届けて、初めて差別化できる時代へと変化。ユニバーサルポストは2019年に「Truepress JET 520HD+」を国内初導入し、「印

刷技術で「個」の革新。」をスローガンにビジネスを展開している。同社の前田尚子取締役、ブランド本部ブランド室の前田優林係長にお話を伺った。

#### お客さまのパートナーとなる 印刷会社を目指して

印刷を依頼するお客さまは、売り上げを上げるためにプロモーションを企画し、そのツールとして印刷物を発注する。経済が成長していた時代は、お客さまの言われたとおりの印刷物をきれいに印刷することで、印刷物そのものが付加価値となり、お客さまの満足度が得られていた。しかし現在は、あの手この手で販促企画を考え、売り上げの向上を目指しているが、昔のように簡単には運ばず、印刷会社が

作る印刷物だからといって、お客さまの満足は得られない。ユニバーサルポストは創業当時から「お客さまのお役に立つ」を企業理念に掲げており、これからの時代、お客さまの企業や商品のブランド力を高めるプロモーションがお客さまのお役に立てる活動になると確信し、全部門・全社員で「One to One」をキーワードにさまざまな取り組みを実践している。

一般的に印刷業界では、「One to One＝バリエブル印刷」と考えられている。しかしユニバーサルポストでは、消費者の“こころ”をターゲットにした考えを「One to One」という言葉で表現している。消費者は、たとえ1つの商品でも100人いれば100通りの感じ方があり、あるチラシを見て“こころ”に響く人もいれば響かない人もいる。また、チラシのメッセージやチラシを出すタイミングが変われば、それまで響かなかった人にも響く結果に変わったり、その逆も起こったりする。これは、従来の印刷物を作るサービスでは不可能なことであり、お客さまの売りに貢献するプロモーション企画のパートナーとしてサービスを提供することで実現できる。このサービスを提供するには、社員がユーザー視点での分析力を持つこと、そしてお客さまから顧客データや販売データなどを頂くことが不可欠である。つまり、お客さまの売りを上げるプロモーションの仕組みづくりをお客さまとユニバーサルポストの間で構築することで、初めて実現する。この関係を築くまでの営業活動は大変だが、現在では営業担当者が「One to One」の考えを理解し、お客さまの販促課題を仮説立てし、提案型の営業に変わりつつある。お客さま自身もさまざまな販促を考えて実施するが、効果的な販促につながらないことが課題であり、ユニバーサルポストが考えるサービス提案に耳を傾けるお客さまも増えているという。

## U-POST が「One to One」にこだわるワケ

原爆投下直後、創業者は故郷広島に地に戻りました。何もかもなくなった広島に、日本に、経済を作らなければ。「この悲惨さを伝えること」から始めようと、広島で印刷会社を創業。それから75年目を迎える今、「個」の時代に相応しい事業を展開。消費者に感動を、そして企業の繁栄を目指し、必ず経済を活性化させることに貢献します。



### 実際の営業現場では

ユニバーサルポストの事業は、既存事業、主力事業、未来事業の3つのカテゴリーに分かれている。未来事業は、「One to One」サービスを主体とする、お客さまの売上貢献に寄り添う事業モデルである。簡単にいえば、既存事業と主力事業は印刷物の提供がゴールになるが、未来事業は印刷物の提供がゴールではなく、お客さまの売り上げへの貢献がゴールになる、難易度の高いものとなる。未来事業では、先鋭な人材を集結させたブランド本部が主体となっており、サービスプログラムやプロモーション企画をデザインし、一般営業と一緒に市場を開拓する。営業担当者は、既存事業・主力事業での成績が良くても、未来事業への貢献がなければ評価されない(個人のスキルによって評価配当のバランスは異なる)。このようなチーム編成や営業活動の仕組みによって、誰もが「One to One」サービスを主体とする未来事業への営業に携わることになる。結果的に、一般営業も提案型の営業スタイルに変わり、お客さまも「One to One」型プロモーションの大切さを理解し、将来への移行を考えた上で既存事業型で発注するケースも多く、既存事業の落ち込みも少ないという。

### 2拠点の生産工場と企業理念

ユニバーサルポストの印刷工場は、オフセット印刷機が稼働する「カラボ・プロダクションFactory」(本社工場)と、「Truepress JET 520HD+」をはじめデジタル印刷機が稼

働する「One to OneメッセージFactory」(大州工場)に分かれている。主力事業と未来事業を担う大州工場では、新たなデバイスやシステムを導入して「One to One」型プロモーションの商材を開発している。一方、本社工場でのオフセット印刷は、既存事業で収益性を高めるためには重要である。両方の工場がうまく稼働することで3つの事業が成り立つとして、「より良いを目指す」「相互理解を行う」「未来志向で考える」の3つのバリュー(行動規範)を社内に展開し、工場の生産性を高めている。

これらのバリューは、企業理念である「お客さまのお役に立つ」を将来の事業を見据えたミッション、ビジョン、パーパスとして定義し、組織力を強化し、お客さまから信頼を得ることにつながっている。

#### ミッション

パーソナライズ・「One to One」市場において、リーディングカンパニーとして経済・社会の発展を牽引していく。

#### ビジョン

生活者一人一人がピンポイントなコミュニケーションで企業とつながり、行動を後押しされ、より便利で豊かな暮らしと経済の活性化が実現する。

#### パーパス

創造性を通じて人々に感動や幸せを届ける。

### パーソナルメッセージ

「2019年にTruepress JET 520HD+を導入したときは、次世代の事業を創っていくという目的で喜瀬清代表取締役社長は導入を決めました。そこから、One to One型プロモーションサービスを創るまでが大変でした。」(前田取締役)

「Truepress JET 520HD+」の導入だけでは「One to One」型プロモーションサービスの実現は難しく、高速輪転印刷機で印刷された用紙に対してバリエブルで中綴じ加工、製袋加工、無線綴じ加工を行うシステムを構築して、初めて商材にすることができる。一方、上流側では、バリエブル化するデータを作る仕組みや、お客さまの分析データからバリエブル印刷を行うためのリストデータを作成する仕組みが必要となる。これらの仕組みがそろうことで、バリエブル印刷の商材を作ることが可能になる。このようなシステムに加え、お客さまの商品データ分析と人間の感性で総合的にデザインすることで、初めてパーソナルメッセージが創り出される。パーソナルメッセージを含んだデザインを創り出すことが、同社のブランド本部ブランド室の役割であり、お客さまの役に立つための要となって「One to One」サービスを推進している。例えば、紙を使わずにLINEサービスなどで、個々の消費者にパーソナルメッセージを届けることもあるという。また、紙を使う場合でも、無版の「Truepress JET 520HD+」を使うことによって1部何円という価格設定へと変更し、お客さまにとって分かりやすくしている。最近是用紙価格が高くなったこともあって、効果が得られやすいユーザーに絞ることで部数を減らして、代わりにヒット率を高くする(販売効果を向上させる)提案が成されている。つまり、客層と全く異なる消費者に



はプロモーションを行わないことで、値引きしなくてもお客さまの販売価格と作る側の原材料コストを抑えられ、かつ、紙資源を無駄に使わないといった環境配慮の活動にもつながるという。

### 「Truepress JET 520HD+」がもたらした変化

「Truepress JET 520HD+」が持っているポテンシャルは、無版でオフセット印刷機のようにコート紙に生産性高く印刷できるだけだと思われがちである。しかしユニバーサルポストにとって、「Truepress JET 520HD+」の存在が未来の印刷会社の姿を描ききっかけとなった。そしてビジネススタイルの根本からの変革につながり、それに合ったビジネス開発を推進することで「創注」につながっている。

また「Truepress JET 520HD+」のメインオペレーターは、ウクライナからの避難を余儀なくされ、いつ帰ることができるか分からないドラハン レイシャさんが担当している。ユニバーサルポストは、広島に避難している人の仕事がないという話を耳にして、すぐに県に連絡を取り、1週間後には働いてもらえるようになったという。前田取締役は、「いずれウクライナは復興する。そのときに自国の経済発展を印刷技術で支えるようになるのなら、戻ったときに彼女の励みになる」との想いで受け入れたと語る。

オフセット印刷機を操れるようになるには、通常1～2年は必要になるが、操作が比較的簡単な「Truepress JET 520HD+」のオペレーションなら可能と判断し、週3日働いてもらっている。受け入れ側も受け入れられる側も、全てが最初から問題がなかったといえようことになる。最大の課題はコミュニケーション。しかし、それは言葉が通じなければ当然のことで、お互いに寄り添う気持ちで、自然な流れからさまざまな工夫を行った。3カ月後には、レイシャさんは「Truepress JET 520HD+」のオペレーションをマスター。教える側も教わる側も苦労はなかったと話す。そして、レイシャさんはこの7月に正社員になる。社内では、良い意味でさまざまな人々と仕事をするという障壁は低くなった。ユニバーサルポストでは今後、外国人はもちろんのこと、障害者雇用も進めていくとのことだ。

日本のアニメや漫画などの文化が大好きで、一度は日本に行きたいという想いをもち続けていました。今回の来日は戦争からの避難という形になってしまいましたが、日本が好きという気持ちは変わりません。

働き先を探していたところ、ユニバーサルポストさんから声を掛けていただき、働くことになりました。以前に自動車部品の工場で働いた経験はありましたが、印刷工場で働くのは初めて。従来のオフセット印刷機は、版替えやブランケット洗浄に加え、色調整、見当調整などの熟練した技術が必要で、これらを習得するために数年はかかると伺っていましたが、私が担当する「Truepress JET 520HD+」は、操作画面からオペレーションするため、基本的な操作はすぐに覚えることができました。その上、インク特有のにおいや装置の騒音も少なく、働きやすい環境です。言語の壁がありますが、「Truepress JET 520HD+」の操作画面は英語メニューに切り替えられるため、操作に問題はありません。ただ、画面に表示されるジョブ名や顧客名などは日本語表示のため、ジョブを間違えないように選択することが難しいですね。それでも翻訳ツールを駆使しながら、仕事場の皆さんとコミュニケーションを図り、ミスなく仕事することを心掛



Truepress JET 520HD+をオペレーションするドラハン レイシャさん

けています。まだ日本語をうまく話せないため、苦労すること多いですが、他の方たちがウクライナ語であいさつをしてくれたり、ジェスチャーを交えて丁寧に指導してくれたりすると、感謝の気持ちでいっぱいになり、涙があふれることがあります。ユニバーサルポストで働く日々は楽しく充実していて、恵まれた環境を用意していただいたユニバーサルポストにはとても感謝しています。

(ドラハン レイシャ)



## 株式会社 ユニバーサルポスト

住 所 広島市西区商工センター7丁目5番52号

代 表 者 代表取締役社長 喜瀬 清

創 業 1947年11月

従 業 員 数 グループ合計225人※  
(2023年6月1日現在) ※役員は含まず。

役 員 数 8人

<https://www.u-post.co.jp/>

# SCREEN

[www.screen.co.jp/ga](http://www.screen.co.jp/ga)

## 株式会社 SCREEN GP ジャパン

〒135-0044 東京都江東区越中島一丁目1-1 ヤマトネ深川1号館

東京支店 / 03(5621)8266(代) 大阪支店 / 06(6531)0333(代) 名古屋支店 / 052(218)6400(代)  
福岡支店 / 092(436)7081(代) 北海道営業所 / 011(726)0707(代) 東北営業所 / 022(224)1741(代)  
新潟営業所 / 025(241)0112(代) 静岡営業所 / 054(281)0955(代) 長野営業所 / 026(224)5770(代)  
金沢営業所 / 076(292)2345(代) 京都営業所 / 0774(46)7533(代) 中国営業所 / 082(264)6451(代)  
四国営業所 / 087(837)8151(代)

※本カタログは、弊社のヒラギノフォントを使用しています。  
※本カタログの各商品名は各社の商標・登録商標です。  
※本カタログの仕様ならびに商品デザインは改良のため予告なしに変更されることがあります。  
※本カタログに掲載している商品は、日本国内仕様です。  
※本カタログは上記 QR コードから最新版かどうかの判定が可能です。

No.190-145 V1-J SCI 2023年9月改訂

印刷: Truepress JET 520HD 用紙: OKトップコート+EF

